

F-5 北海道における減圧症に対する治療体制の 現況と将来の問題点

国立札幌病院麻酔科 武谷敬之
美唄労災病院高圧医療部 北条泰
北海道大学医学部麻酔学教室 西田宣子

近年、北海道においては、水産資源の枯渇などの深刻な状況により「栽培漁業」が急速に発展しつつあり、それに伴って漁業における潜水技術の応用範囲が拡大しつつある。

また、河川底部における地下鉄やトンネル工事など高気圧環境下での労働も年々増加の傾向にある。こうした情勢は、一方では、減圧症患者の発生の危険を伴うことは予想されることであり、事実美唄労災病院における高気圧治療も次第に増加の傾向がうかがわれる。

減圧症患者発生防止の対策として、過去5年間、われわれは、本道の漁業従事者に対する潜水士講習の一部を担当し、高気圧障害の知識普及に微力ながら努めてきた。

しかしながら、今回、道内において、重篤な減圧症（脊髄型）が発生し、実際の治療にあたり、多くの問題点があることを痛感した。

すなわち、現場での応急処置、輸送システム、治療装置、治療補助装置、治療スタッフの確保など、検討、改良すべき点が多い。

これを契機に、北海道地域の減圧症発生可能な地帯とその治療体制を、北海道指導漁連北海道労働基準監督局衛生課などの協力を得て調査する。

また、特に救急治療システムについても、対策を論じ、将来の展望もあわせて述べたい。

(プログラム抄録再掲)